

2025（令和7）年度 福岡女子大学 一般選抜 前期日程 個別学力検査 解答例

数学（環境科学科）

1 (1) $11001011_{(2)} = 203_{(10)} = \text{CB}_{(16)}$
 $2345_{(8)} = 1253_{(10)} = 4\text{E}5_{(16)}$

(2) $145_{(16)} = 101000101_{(2)}$
 $\text{B}2_{(16)} = 10110010_{(2)}$

(3) 十進法で表現して3桁となる自然数 N の範囲は

$$10^2 \leq N < 10^3$$

であり、十六進法で表現して3桁となる自然数 N の範囲は

$$16^2 \leq N < 16^3$$

である。これらを同時に満たす N の範囲は

$$16^2 \leq N < 10^3$$

となるので、これを満たす自然数 N の個数は

$$10^3 - 16^2 = 744 \text{ (個)}$$

となる。

(4) $1000111001010010_{(2)} = 8\text{E}52_{(16)}$
 $1000110011111011_{(2)} = 8\text{CFB}_{(16)}$
 となるので、該当する漢字は「山口」となる。

2 (1) それぞれ以下の通りとなる。

$$\log_{10} 20 = \log_{10}(2 \cdot 10) = \log_{10} 2 + 1 \doteq 1.301$$

$$\log_2 5 = \frac{\log_{10} 5}{\log_{10} 2} = \frac{0.6990}{0.3010} \doteq 2.322$$

(2) $\log_{10} 20^{24}$ を計算すると

$$\log_{10} 20^{24} = 24 \log_{10} 20 = 24 \times 1.301 = 31.224$$

となる。よって、

$$31 < \log_{10} 20^{24} < 32$$

$$10^{31} < 20^{24} < 10^{32}$$

となる。従って、 20^{24} の桁数は32桁となる。

(3) 最高位の数が a である自然数 N について, $\log_{10} N$ の小数部分を q とするとき,

$$\log_{10} a \leq q < \log_{10}(a+1)$$

が成り立つ. (2) の結果から, $\log_{10} 20^{24}$ の小数部分は 0.224 であるので,

$$\log_{10} 1 < 0.224 < \log_{10} 2$$

が成り立つことが分かる. 従って, 20^{24} の最高位の数字は 1 である.

(4) $\log_2 20^{24}$ を計算すると (1) の結果より

$$\log_2 20^{24} = 24 \log_2 20 = 24 \times 2.322 = 103.728$$

となる. よって

$$103 \leq \log_2 20^{24} < 104$$

が成り立つ. 従って, 20^{24} を 2 進数で表した時の桁数は 104 桁である.

3 (1) 問題文より, 以下が成り立つ.

$$\overrightarrow{AE} = \frac{3}{4} \overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{AF} = \frac{2}{3} \overrightarrow{AB}$$

(2) 問題文より, 以下が成り立つ.

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AP} &= (1-s)\overrightarrow{AB} + s\overrightarrow{AE} \\ &= (1-s)\overrightarrow{AB} + \frac{3}{4}s\overrightarrow{AC} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AP} &= t\overrightarrow{AF} + (1-t)\overrightarrow{AC} \\ &= \frac{2}{3}t\overrightarrow{AB} + (1-t)\overrightarrow{AC} \end{aligned}$$

(3) 前問より, 以下が成り立つ.

$$1-s = \frac{2}{3}t, \quad \frac{3}{4}s = 1-t$$

これらから, $3-3s=2t$, $3s=4-4t$ となる.

すると, $3-4+4t=2t$ となり, $t=\frac{1}{2}$ となる.

よって, $s=1-\frac{2}{3}\cdot\frac{1}{2}=\frac{2}{3}$ が得られる.

以上から,

$$\overrightarrow{AP} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AC}$$

(4) \overrightarrow{AD} については, m, n を用いて以下のように表せる.

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AD} &= m\overrightarrow{AP} \\ &= m\left(\frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AC}\right) \\ &= \frac{1}{3}m\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}m\overrightarrow{AC}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AD} &= \overrightarrow{AB} + n\overrightarrow{BC} \\ &= \overrightarrow{AB} + n(\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB}) \\ &= (1 - n)\overrightarrow{AB} + n\overrightarrow{AC}\end{aligned}$$

これらから, $\frac{1}{3}m = 1 - n$, $\frac{1}{2}m = n$ となる.

すると, $m = 2n$ となり, $\frac{2}{3}n = 1 - n$ から $n = \frac{3}{5}$ が得られる.

つまり, $\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{AB} + \frac{3}{5}\overrightarrow{BC}$ なので, $BD : DC$ は $3 : 2$ となる.

(5) 以上の結果から,

$$\begin{aligned}x\overrightarrow{AP} + y\overrightarrow{BP} + z\overrightarrow{CP} &= x\left(\frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AC}\right) + y(\overrightarrow{AP} - \overrightarrow{AB}) + z(\overrightarrow{AP} - \overrightarrow{AC}) \\ &= x\left(\frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AC}\right) + y\left(\frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB}\right) + z\left(\frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AC}\right) \\ &= \overrightarrow{AB}\left(\frac{1}{3}x - \frac{2}{3}y + \frac{1}{3}z\right) + \overrightarrow{AC}\left(\frac{1}{2}x + \frac{1}{2}y - \frac{1}{2}z\right)\end{aligned}$$

これが $\vec{0}$ となるので, $x - 2y + z = 0$, $x + y - z = 0$ となる. すると, $y = 2x$, $z = x + y = x + 2x = 3x$ が得られる. 以上から, $x : y : z = 1 : 2 : 3$ となる.

- 4 (1) 表の出た回数が 3 回であるとき, 塗りつぶしたマス目が一直線に並ぶような結果は 8 通りである. 一方, 表の出た回数が 3 回となるような結果は全部で

$${}_9C_3 = 84 \text{ (通り)}$$

であるから, A が空集合となるのは

$$84 - 8 = 76 \text{ (通り)}$$

である.

- (2) 表の出た回数が 4 回であるとき, 塗りつぶしたマス目が一直線に並ぶのは, 3 つの数で一直線に並んで, 残りの 1 つの数字は残った 6 個のマス目のうち任意の数字でよいので,

$$8 \times 6 = 48 \text{ (通り)}$$

となる. 一方, 表の出た回数が 4 回となるような結果は全部で

$${}_9C_4 = 126 \text{ (通り)}$$

であるから、 A が空集合となるのは

$$126 - 48 = 78 \text{ (通り)}$$

である。

- (3) 表の出た回数が 5 回であるとき、塗りつぶしたマス目が 2 か所で一直線に並ぶのは、集合 A の 2 つの要素が C と R 、 C と N 、 R と N 、 N と N の組み合わせとなる場合なので、

$$3 \times 3 + 3 \times 2 + 3 \times 2 + 1 = 22 \text{ (通り)}$$

となる。

- (4) 表の出た回数が 5 回であるとき、塗りつぶしたマス目が一直線に並ぶのは、3 つの数で一直線に並んで、残りの 2 つの数字は残った 6 個のマス目のうちの 2 個の数字となる。この 2 つの数字の選び方は ${}_6C_2 = 15$ 通りあり、一直線の選び方は 8 通りであるので、これらの積を取ると

$$15 \times 8 = 120$$

となるが、これらの中には、 A の要素数が 2 のものが重複して数えられている。よって、

$$120 - 2 \times 22 = 76 \text{ (通り)}$$

となる。

- (5) 表が出た回数が 6 回で、 A が空集合となるのは、斜めのいずれかが塗りつぶされない場合なので、2 通りである。

- (6) 表の出た回数が 5 回であるという事象を B 、そうでない事象を C とする。 A が空集合であるという事象を E とする。コインを 9 回投げて表と裏が出るパターンは総数は 2^9 であるから、

$$P(B) = \frac{{}_9C_5}{2^9} = \frac{126}{2^9}$$

$$P(C) = 1 - P(B) = \frac{2^9 - 126}{2^9}$$

となる。一方、表の出た回数が 5 回であるときに A が空集合となる条件付確率は、 ${}_9C_5 = 126$ および、(3) と (4) の結果から

$$P_B(E) = \frac{(126 - 76 - 22)/2^9}{126/2^9} = \frac{28}{126}$$

となる。表の出た回数が 5 回でないときに A が空集合になる条件付確率は、表の出た回数が 2 回以下の場合には必ず A は空集合になり、7 回以上の場合には必ず空集合にならないこと、および (1) と (2) と (5) の結果より、

$$P_C(E) = \frac{{}_9C_0 + {}_9C_1 + {}_9C_2 + 76 + 78 + 2}{2^9 - 126} = \frac{202}{2^9 - 126}$$

となる. 以上のことから, A が空集合であったことを知らされた場合, 表の出た回数が 5 回であった確率は,

$$\begin{aligned} P_E(B) &= \frac{P(B)P_B(E)}{P(B)P_B(E) + P(C)P_C(E)} \\ &= \frac{28/2^9}{28/2^9 + 202/2^9} = \frac{28}{230} = \frac{14}{115} \end{aligned}$$

となる.

- 5 (1) $y = e^{-x} \sin x$ より, $y = 0$ とすると $e^{-x} > 0$ より $\sin x = 0$ なので $x = 0, \pi, 2\pi, 3\pi, \dots$. 次に,

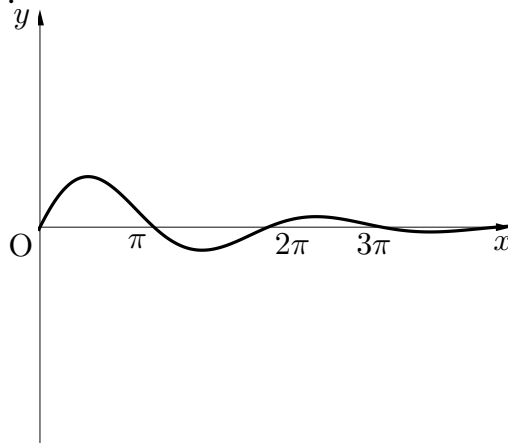
$$\begin{aligned} y' &= -e^{-x} \sin x + e^{-x} \cos x \\ &= e^{-x}(-\sin x + \cos x) \end{aligned}$$

$y' = 0$ とすると, $e^{-x} > 0$ より $\sin x = \cos x$ である. このとき $x = \frac{1}{4}\pi, \frac{5}{4}\pi, \dots$. 増減表は次のようになる.

x	0	$\frac{\pi}{4}$	$\frac{5\pi}{4}$	$\frac{9\pi}{4}$...			
y'	+	0	-	0	+	0	...	
y	0	\nearrow	$\frac{1}{\sqrt{2}}e^{-\frac{\pi}{4}}$	\searrow	$-\frac{1}{\sqrt{2}}e^{-\frac{5\pi}{4}}$	\nearrow	$\frac{1}{\sqrt{2}}e^{-\frac{9\pi}{4}}$...

極値については, $x = \frac{\pi}{4} + 2n\pi$ で極大値, $x = \frac{5}{4}\pi + 2n\pi$ で極小値をとる. なお, $x = \frac{\pi}{4}$ で極大値 $\frac{1}{\sqrt{2}}e^{-\frac{\pi}{4}}$, $x = \frac{5}{4}\pi$ で極小値 $-\frac{1}{\sqrt{2}}e^{-\frac{5}{4}\pi}$ をとる.

グラフの概形は以下の通り.



- (2) 部分積分を利用する.

$$\begin{aligned} \int e^{-x} \sin x \, dx &= -e^{-x} \cos x - \int e^{-x} \cos x \, dx \\ &= -e^{-x} \cos x - (e^{-x} \sin x + \int e^{-x} \sin x \, dx) \\ &= -e^{-x} \cos x - e^{-x} \sin x - \int e^{-x} \sin x \, dx \end{aligned}$$

同形が出てくるので, $\int e^{-x} \sin x \, dx = -\frac{1}{2}e^{-x}(\sin x + \cos x) + C$ (C は積分定数.)

(3) 前問を利用すると,

$$\begin{aligned}\int_0^\pi e^{-x} \sin x \, dx &= \left[-\frac{1}{2}e^{-x}(\sin x + \cos x) \right]_0^\pi \\ &= -\frac{1}{2}e^{-\pi}(0 - 1) + \frac{1}{2}(0 + 1) \\ &= \frac{1}{2}e^{-\pi} + \frac{1}{2} \\ &= \frac{1}{2}(e^{-\pi} + 1) \\ -\int_\pi^{2\pi} e^{-x} \sin x \, dx &= -\left[-\frac{1}{2}e^{-x}(\sin x + \cos x) \right]_\pi^{2\pi} \\ &= \frac{1}{2}e^{-2\pi}(0 + 1) - \frac{1}{2}e^{-\pi}(0 - 1) \\ &= \frac{1}{2}e^{-2\pi} + \frac{1}{2}e^{-\pi} \\ &= \frac{1}{2}e^{-\pi}(e^{-\pi} + 1) \\ \int_{2\pi}^{3\pi} e^{-x} \sin x \, dx &= \left[-\frac{1}{2}e^{-x}(\sin x + \cos x) \right]_{2\pi}^{3\pi} \\ &= -\frac{1}{2}e^{-3\pi}(0 - 1) + \frac{1}{2}e^{-2\pi}(0 + 1) \\ &= \frac{1}{2}e^{-3\pi} + \frac{1}{2}e^{-2\pi} \\ &= \frac{1}{2}e^{-2\pi}(e^{-\pi} + 1)\end{aligned}$$

(4) S_k は, 初項 $\frac{1}{2}(e^{-\pi} + 1)$, 公比 $e^{-\pi}$ の等比数列であり, $0 < e^{-\pi} < 1$ であるので, $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=0}^n S_k$

は収束し, その値は

$$\begin{aligned}\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=0}^n S_k &= \frac{1}{1 - e^{-\pi}} \frac{1}{2}(e^{-\pi} + 1) \\ &= \frac{1 + e^{-\pi}}{2(1 - e^{-\pi})}\end{aligned}$$